

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-52402

(P2019-52402A)

(43) 公開日 平成31年4月4日(2019.4.4)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 1 D 13/11 (2006.01)	A 4 1 D 13/11	2 E 1 8 5
A 6 2 B 18/02 (2006.01)	A 6 2 B 18/02	C

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2017-178518 (P2017-178518)	(71) 出願人	317013876
(22) 出願日	平成29年9月19日 (2017.9.19)		齋藤 貴義
			静岡県浜松市西区志都呂1丁目4番13号
		(74) 代理人	100130281
			弁理士 加藤 道幸
		(72) 発明者	齋藤 貴義
			静岡県浜松市西区志都呂一丁目4番13号
		Fターム(参考)	2E185 AA07 BA20 CB11 CB19

(54) 【発明の名称】 涎防止マスク

(57) 【要約】

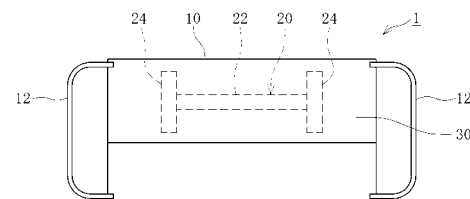
【課題】

涎の流出を防止することができる涎防止マスクを提供することにある。

【解決手段】

マスク本体と、マスク本体の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部と、横方向凸部の少なくとも片側に横方向凸部に対し略ト字状又は略L字状に垂直に伸びる口角凸部とを有する口部凸部と、口側に口部凸部を覆うように設けられたシート状の涎を吸収する涎吸収材とを備えたことを特徴とし、また、涎吸収材が、高分子吸収材であることを特徴とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

涎の流出を防止するための涎防止マスクにおいて、マスク本体と、
該マスク本体の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部と、該横方向凸部の少なくとも片側に該横方向凸部に対し略ト字状又は略 L 字状に垂直に伸びる口角凸部とを有する口部凸部と、
口側に該口部凸部を覆うように設けられたシート状の涎を吸収する涎吸収材とを備えたことを特徴とする涎防止マスク。

【請求項 2】

前記口部凸部が、前記口角凸部を前記横方向凸部の両脇に有し、略 H 字状又は略 U 字状であることを特徴とする請求項 1 記載の涎防止マスク。

【請求項 3】

前記横方向凸部及び前記口角凸部が、丸棒状であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の涎防止マスク。

【請求項 4】

前記口部凸部が、前記マスク本体の上方寄りに配置されていることを特徴とする請求項 1～請求項 3 のいずれかに記載の涎防止マスク。

【請求項 5】

前記涎吸収材が、高分子吸収材であることを特徴とする請求項 1～請求項 4 のいずれかに記載の涎防止マスク。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、涎の流出を防止するための涎防止マスクに関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、高齢者や病人の涎の流出を防止するために各種の方法が提案されている。例えば、特許文献 1 に記載のリップカバーマスクは、リップカバーの上部、下部に L 字型の突起部を設けてマスクにリップカバーを設けたものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 1 4 0 4 1 8 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来のマスクでは、L 字型の突起部では、十分に涎の流出を防止することができない。

【0005】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、涎の流出を防止することができる涎防止マスクを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

請求項 1 記載の涎防止マスクは、マスク本体と、マスク本体の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部と、横方向凸部の少なくとも片側に横方向凸部に対し略ト字状又は略 L 字状に垂直に伸びる口角凸部とを有する口部凸部と、口側に口部凸部を覆うように設けられたシート状の涎を吸収する涎吸収材とを備えたことを特徴とする。

【0007】

請求項 2 記載の涎防止マスクは、口部凸部が、口角凸部を横方向凸部の両脇に有し、略 H 字状又は略 U 字状であることを特徴とする。

【0008】

請求項 3 記載の涎防止マスクは、横方向凸部及び口角凸部が、丸棒状であることを特徴とする。

【0009】

請求項 4 記載の涎防止マスクは、マスク本体の上方寄りに配置されていることを特徴とする。

【0010】

請求項 5 記載の涎防止マスクは、涎吸収材が、高分子吸収材であることを特徴とする。

10

【発明の効果】

【0011】

本願の発明によれば、口部凸部と、口側に口部凸部を覆うように設けられたシート状の涎を吸収する涎吸収材とを備えたことにより、涎の流出を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】 本発明に係る涎防止マスクの第 1 の実施例を示す背面図である。

【図 2】 同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す平面図である。

【図 3】 同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す側面図である。

【図 4】 同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す斜視図である。

20

【図 5】 本発明に係る涎防止マスクの第 2 の実施例を示す背面図である。

【図 6】 同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す平面図である。

【図 7】 同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す側面図である。

【図 8】 同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

本願の涎防止マスクは、涎の流出を防止するためのものである。涎防止マスクは、マスク本体と、マスク本体の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部と、横方向凸部の少なくとも片側に横方向凸部に対し略 T 字状又は略 L 字状に垂直に伸びる口角凸部とを有する口部凸部と、口側に口部凸部を覆うように設けられたシート状の涎を吸収する涎吸収材とを備えた構造で、以下で、実施例で具体的に説明する。

30

【実施例 1】

【0014】

以下、第 1 の実施例の形態について図面を参照しながら具体的に説明する。図 1 は、本発明に係る涎防止マスクの第 1 の実施例を示す背面図である。図 2 は、同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す平面図である。図 3 は、同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す側面図である。図 4 は、同第 1 の実施例に係る涎防止マスクを示す斜視図である。

【0015】

本実施例の涎防止マスク 1 は、マスク本体 10、口部凸部 20 及び涎吸収材 30 とから構成されている。マスク本体 10 は、一般的なマスクと同様であり、略長方形の布材や不織布等からなり、左右の辺に紐状の耳掛け 12 が設けられている。このマスク本体 10 は、各種のマスクを用いることが可能で、基本的には、マスクによる制約はない。

40

【0016】

口部凸部 20 は、マスク本体 10 の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部 22 と、横方向凸部 22 の両側に横方向凸部 22 に対し略 T 字状に垂直に伸びる口角凸部 24 とを有している。すなわち、口部凸部 20 が、口角凸部 24 を横方向凸部 22 の両脇に有し、略 H 字状である。尚、口角凸部 24 を、横方向凸部 22 の両側に横方向凸部 22 に対し略 L 字状に垂直に伸びるようにしてもよく、口部凸部 20 が、口角凸部 24 を横方向凸部 22 の両脇に有し、略 U 字状にしてもよい。

【0017】

50

口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 は、形状は丸棒状が好ましいが、面取りされたような形状の棒形状でもよく、口や肌に対して角部が強く当たるような感触にならない形状であればよい。また、口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 の材質は、布や綿や不織布やスポンジのような柔軟な材質が望ましく、通気性や吸水性のある材質がより好ましい。さらに、口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 は、弾性のある材料が好ましい。

【0018】

口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 のそれぞれの長さや太さは、子供や大人で異なるようにすることが好ましく、また、男女によって異なるようにすることが好ましい。例えば、一般的に、男性用では、口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 を丸棒状にした場合、直径を約 10 mm、左右の口角凸部 24 の間隔を約 80 mm、口角凸部 24 の長さを 40 mm 程度にする。また、女性用では、例えば、口部凸部 20 の横方向凸部 22 及び口角凸部 24 を丸棒状にした場合、直径を約 10 mm、左右の口角凸部 24 の間隔を約 70 mm、口角凸部 24 の長さを 40 mm 程度にする。

【0019】

口部凸部 20 を配置するマスク本体 10 の位置は、使用する人の口の位置等の状態により変えるようにすればよく、特に、口部凸部 20 自体を配置する位置によって制限されるものではない。但し、口部凸部 20 の横方向凸部 22 が、マスク本体 10 の左右の中心に配置するのが一般的ではある。尚、口部凸部 20 をマスク本体 10 の上方寄りに配置するようにしてもよい。

【0020】

涎吸収材 30 は、口側に口部凸部 20 を覆うように設けられたシート状の涎を吸収するものである。涎吸収材 30 は、涎を後戻りしないように吸収する材質であればよいが、特に高分子吸収材が好ましい。

【0021】

以上のような、涎防止マスク 1 によれば、装着した状態で、涎の流出を防止することができる。

【実施例 2】

【0022】

以下、第 2 の実施例の形態について図面を参照しながら具体的に説明する。図 5 は、本発明に係る涎防止マスクの第 2 の実施例を示す背面図である。図 6 は、同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す平面図である。図 7 は、同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す側面図である。図 8 は、同第 2 の実施例に係る涎防止マスクを示す斜視図である。

【0023】

本実施例の涎防止マスク 2 は、マスク本体 10、口部凸部 40 及び涎吸収材 30 とから構成されている。マスク本体 10 は、実施例 1 と同様である。

【0024】

口部凸部 40 は、マスク本体 10 の口側面に設けられた、上下の唇の間に左右方向に口角まで伸びる横方向凸部 42 と、横方向凸部 42 の片側に横方向凸部 42 に対し略 T 字状に垂直に伸びる口角凸部 44 a, 44 b, 44 c とを有している。尚、口角凸部 44 a, 44 b, 44 c を、横方向凸部 42 の片側に横方向凸部 42 に対し略 L 字状に垂直に伸びるようにしてもよい。

【0025】

口部凸部 40 の横方向凸部 42 及び口角凸部 44 a, 44 b, 44 c の形状や材質は、実施例 1 と同様である。尚、口角凸部 44 a, 44 b, 44 c は、1 本でもよいが、本実施例 1 の涎防止マスク 2 では、口角凸部 44 a, 44 b, 44 c が並列して設けられている。口部凸部 40 自体の配置や横方向凸部 42 の長さや太さは、実施例 1 と同様であるが、口角凸部 44 a, 44 b, 44 c の太さは、例えば、真ん中の口角凸部 44 b が、約 13 mm で、他は約 10 mm である。このように、口角凸部 44 a, 44 b, 44 c で、それぞれ太さを変えてもよいし、また変えなくてもよい。

【0026】

口角凸部44a, 44b, 44cを横方向凸部42のどちら側に設けるかは、涎防止マスク2を用いる人の状態により選択するようにすればよい。

【0027】

涎吸収材30は、実施例1と同様である。

【0028】

以上のような、涎防止マスク2によっても、装着した状態で、涎の流出を防止することができる。

【産業上の利用可能性】

【0029】

以上のように、本発明によれば、涎の流出を防止することができる涎防止マスクを提供することができる。

【符号の説明】

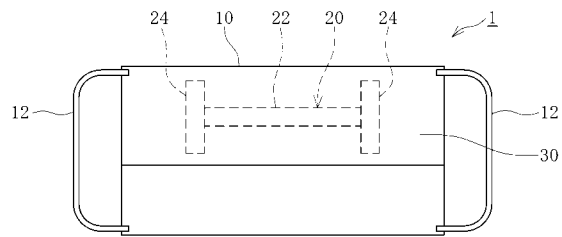
【0030】

1・・・涎防止マスク
2・・・涎防止マスク
10・・・マスク本体
12・・・耳掛け
20・・・口部凸部
22・・・横方向凸部
24・・・口角凸部
30・・・涎吸収材
40・・・口部凸部
42・・・横方向凸部
44a・・・口角凸部
44b・・・口角凸部
44c・・・口角凸部

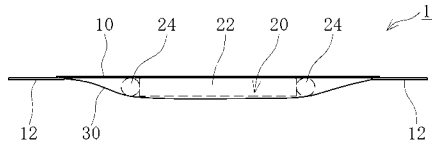
10

20

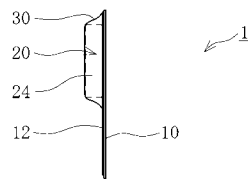
【図 1】



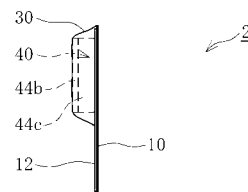
【図 2】



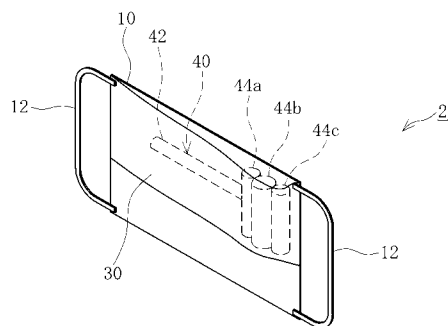
【図 3】



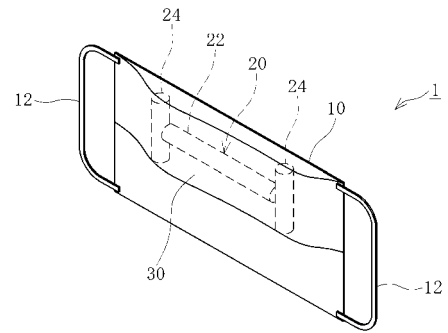
【図 7】



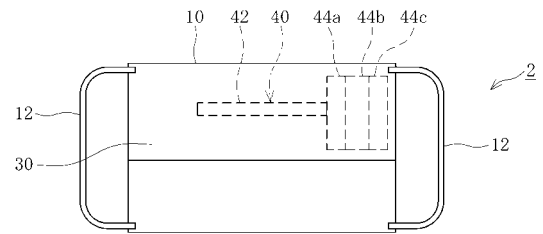
【図 8】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

